

(単元) とともに生きる社会をめざして

(本時のねらい)

- ①世界の食料生産・消費にはなぜ大きな偏りがあるのか, その理由や背景を考察させ, 食料需給のバランスを保つための解決方法を考えさせる。
- ②先進国と発展途上国とのフェアトレードについて, 認識を深めさせる。

(ICT 活用方法)

日本の食料事情, 電子黒板を活用して画像や動画等の視覚的なアプローチを行う。また, 世界地図を投影し, 地理的な確認を行う。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 10分	・同じ食料品にもかかわらず, 国産と外国産とで商品価格が違う理由について, グループで話し合い, 意見をまとめて代表者が発表する。	・すべてに生徒が肯定的に意見を出し合っているか確認し, 活発な議論になっていなければ声かけを行う。その中で, 本時の学習を意識させる。	・電子黒板で資料を映し出す。	ホワイトボード活用
展開 35分	・フードマイレージについて理解するとともに, 新聞の折り込み広告を活用して, グループで外国産の商品の欄を切り抜いたものを世界地図に貼り, 日本の食料事情について	・食料自給率が低く, 食料確保を外国からの輸入に頼っている日本の食料事情の実態を自分たちで地図にまとめさせ, 日本の食料問題だけでなく経済や環境問題への影響について	・電子黒板で世界地図を投影する。授業で学ぶ地域を電子ペンでチェックさせる。 ・電子黒板で資料を映し出す。	

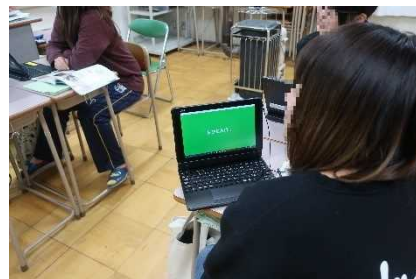
	<p>て推測する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の折り込み広告を活用して、グループでカレーライス材料の産産地を国産の商品の欄を切り抜いて集めたものをワークシートに貼り、フードマイレージの少ない消費の仕方を確認する 	<p>も考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に身近なカレーライス材料の産産地を、産産地の考え方に基づいて、自分たちが住んでいる地域や、できる限りその地域に近い食材を選択させ、グリーンコンシューマー等の概念を伝える。 		
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが身近にできる世界の食料問題の解決に向けた取組について、各自で考え全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料問題解決への方向性についてまとめ、生徒の発表を通して他者の考えも踏まえながら全体で共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で発表する。 	

(授業の様子)

地図の提示



授業の様子



使用した資料



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

教員が資料を提供する以外に、生徒用タブレット端末を使い、必要な情報を調べさせていれば、資料を活用・収集する技能の育成にも繋げることができた。また、実物投影機で生徒の制作物を投影していれば、さらに個別の学習結果を全体で共有しやすかった。